雑草はなぜそこに生えているのか (3)

雑草を育てることの難しさは、芽が出ないことだけではない。たとえ、結果的に芽が出たとしても、芽が出るタイミングがバラバラなのだ。

休眠は、雑草にとっては重要な性質である。しかし、雑草のやっかいなところは、同じ種であっても一粒一粒の休眠に差があることである。休眠したり、覚醒したりというタイミングがまちまちで、ある種子が覚醒していても、別の種子は休眠していたりするのだ。

ちなみに、種子から根や芽が出ることを「発芽」と言い、地面の上に芽が出てくることを「出芽」と言う。発芽のタイミングがバラバラだから、地面の上に出芽してくるのも一斉ではない。次から次へとだらだらと出芽してくるのである。

野菜や花の種子は、種を播けば一斉に芽が出てくる。どれだけの種子が発芽したかは「発芽率」で表されるのに対して、どれくらいそろって発芽したかは①「発芽勢」という言葉で表現される。野菜や花の種子の発芽のタイミングがそろわないと、その後の成長もそろわなくなってしまう。そのため、②栽培する植物にとっては、「そろう」ということがとても大切なのである。

しかし、雑草の種子は、できるだけ「そろわない」ことを大切にしている。

もし、野菜や花の種子のように一斉に出芽してきたとしたら、どうだろう。人間に草取りをされてしまえば、それで全滅してしまう。そのため、わざとそろわないようにして、出芽のタイミングをずらし、次から次へと「不斉一発生」するようになっているのである。

バラバラであるという性質は、人間の世界では「個性」と呼ばれるものかも知れない。③雑草の世界では個性がとても重要なのだ。

（稲垣栄洋『雑草はなぜそこに生えているのか』筑摩書房 第三章による）

遺伝的多様性

遺伝子の多様性が高いと、大きな環境の変化が起こっても、変化に適応して生存する個体がいる確率が高くなる。人間が作る農作物や人工林は遺伝的多様性が低く、ある疫病が流行したときなどに大きな被害が出やすい。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「発芽勢」について、本文から読み取れる内容に当てはまるものを選びなさい。

ア 野菜や花のほうが、雑草よりも発芽勢が高い。

イ 野菜や花のほうが、雑草よりも発芽勢が低い。

〔　　〕

(2) ――線②「栽培する植物」について正しく述べたものを選びなさい。

ア 栽培する植物には雑草などが含まれ、発芽のタイミングや、発芽の後の成長がそろっているという特徴がある。

イ 栽培する野菜や花などは、栽培時の成長をそろえるため、発芽のタイミングがそろっていたほうが都合がよい。

ウ 栽培する雑草や野菜、花といった植物は、発芽のタイミングがそろわないと、その後成長しなくなってしまう。

〔　　〕

(3) ――線③「雑草の世界では個性がとても重要なのだ」とあるが、これはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア 種子ごとに個性があることで、出芽した雑草が草取りされるようなことがあっても、一部は生き残ることができるから。

イ 種子ごとに休眠や覚醒のタイミングをまちまちにすれば、播く時期が異なっても発芽をそろえることができるから。

ウ 種子ごとにさまざまな性質をもつので、中には野菜や花のように栽培に適した性質の雑草もあるはずだから。

〔　　〕